

タイトル

「リトルブッタ」結成プロジェクト
～子供の健全な育成と地域活性化を目指して

応募者

熊崎 朋宏 さん（東京都、個人事業主）

アイデアについて

① アイデアのタイトル

「リトルブッタ」結成プロジェクト
～子供の健全な育成と地域活性化を目指して

②アイデアの概要（目的・方法・効果などを、200字以内でお書き下さい。）

現在、いじめや自殺、ひきこもり等、子供を取り巻く環境が深刻な問題となっている。
こうした状況下にあって、僧侶が子供達と接して、健全な育成をするプロジェクトを提案する。
地域のお寺を舞台に、僧侶が指導者として、子供達に人間として大切なことを教え、様々な活動を積極的に取り組む機会を与え、子供の成長を温かく見守るシステムを作る。
これを地域コミュニティとして機能させていけば、地域活性化に繋がるものとする。

③アイデアの内容（できるだけ具体的にお願い致します。）

添付参照

アゲアの内容

「リトルブッタ」結成プロジェクト

～子供の健全な育成と地域活性化を目指して～

「リトルブッタ」とは

- * ブッタの精神を持って地域住民に幸せを運ぶ子供達のことです。
- * 「リトルブッタ」のメンバーは、小学生低学年(1～3年生)を対象に地域の
子供達から募集します。
- * 「リトルブッタ」は、思いやり等の精神を僧侶から学び、地域社会を元気に
する為、様々な活動に取り組みます。
- * 地域住民の誰からも愛される存在として、
地域交流と活性化の「シンボル」となる事を目指します。

「リトルブッタ」の概要

入会資格は、小学校低学年(1～3年生)までとします。

在籍期限は、小学校卒業までとしますが、卒業後も、

OBとしてイベント開催等の協力をしてもらいます。

入会后1年間は、僧侶を指導者として、お寺で、

人間して大切なことを学びます。

勉強会は、1回60分の授業で、月4回程度が理想です。

僧侶から1年間学んだ者だけが、「リトルブッタ」に任命されます。

その際、認定証や認定バッジ等を授与すると子供は喜ぶでしょう。

僧侶より「リトルブッタ」に任命された子供達は、

ボランティア活動やイベント開催等の地域貢献活動を行います。

子供達が作務衣や袈裟等を着て、様々の人と交流し、街の為に動きまわれば、地域のシンボルとして愛着が沸き、地域活性化に繋がります。

「リトルブッタ」結成の背景

～僧侶にしか出来ないこと～

僧侶は、やさしさや思いやり等、人間が生きていく上で一番大切なものを伝えられる精神論を持ち、心の成長にアンバランスな子供達に対して、悩みを聞いたり、温かく見守ることができる存在です。

リトルブッタのメンバーを小学生低学年に限定したのは、

小学生低学年は、生きる基盤を形成(精神、学業等)する上で、

最も大切な時期だからです。

この時期に僧侶に接して、成長していくことは、非常に重要であると思います。

近年の不登校やいじめ、自殺、非行等の問題は、深刻です。

このような問題は、成長が進むに連れて(中学・高校に進むに連れて)

段々と大きくなり、取り返しがつかない状態になります。

そこで、小学生時代に人間にとって大切な精神論を学び、地域の人々とふれあい、子供に自信を持たせる場を提供することで、将来の人間形成に大きな効果が得られ、先に挙げたいじめ等の問題を軽減できるのではないのでしょうか。このプロジェクトは、家庭や学校教育の手助けとなる社会貢献であり、地域コミュニティとして機能させていくことが、地域活性化に繋がるものと考えます。

具体的内容

ステップ ①「リトルブック」のメンバー募集方法

インターネットやメルマガ。

地域自治体の広報紙やチラシ。

学校・図書館・役所・病院・商店街やショッピングセンター等に配置します。

関係者のクチコミの勧誘等も有効です。

<募集の際の注意点>

いかに親御さんに安心・信用してもらえるか、がポイントです。

募集案内には、下記の言葉を添えると良いでしょう。

例えば、

「思いやりを育てます」、「集中力が身につきます」、「友達がたくさんできます」、

「字がうまくなります」、「お坊さんに為になる話が聞けます」、

「楽しいイベントを考えよう」、「未知の体験ができます」等々。

ステップ ②お寺で僧侶から生きていく上で大切なものを学びます。

入会后1年間は、僧侶を指導者としてお寺で勉強会を開きます。

〈勉強会のポイント〉

- ・僧侶は街のお寺の先生として、小学低学年でも理解できるように、
例えば絵本や紙芝居を使って、人間にとって大切なことを教える。
- ・明るく楽しい時間を過ごすことを目標にする。

〈授業内容の例〉

- ・いのちとは何か?、思いやりの大切さ等の説法、
- ・学校や家庭で起こった楽しいことや悲しいことを討論
- ・悩みや怒り、悲しみを聞いてあげる、
- ・精神を安定させる為、黙とうを日課にする。
- ・書道(字がうまくなったり、漢字を覚える効果)。
- ・夏休みや春休み等は、寺院に泊まって実習体験させる。

ステップ ③ボランティア活動を行います。

1年間の勉強会を終えて、リトルブタになった子供達は、
ボランティア活動をして街を元気にします。

活動を行う際に作務衣や袈裟等の衣装を身にまとって活動すれば、
子供達のテンションもあがり、団結力が期待できるし、
地域住民の方からも注目されるでしょう。

<活動の具体例>

- ・地域の老人ホームや障害者施設、保育園等を訪問して、様々な人と交流する。
- ・地域(公園、駅、商店街等)の清掃や自然環境を守ったり美化するキャンペーンを行う。
- ・地域行政の協力のもと、交通安全や防災キャンペーンを行う。

ステップ④イベントを開催します。

リトルブッタの人数がある程度そろったら、年に1~2回、イベントを開催して、地域活性化に貢献します。

僧侶とリトルブッタが中心となって、イベント内容を考え、

リトルブッタの保護者や学校の友達、地域住民等の協力のもとイベントを行います。

<イベントの具体例>

- ・お寺でむかしあそび大会

(子供達はコマ、輪投げ、ムコ、かるた等で遊び、大人には地域の伝統芸能を紹介)。

- ・お寺で展覧会

(お寺の貴重な展示品やリトルブッタが創作した工作・絵・書道、

ボランティア先でお年寄や園児達と一緒に創作した物、地域の伝統工芸品を展示)

- ・お寺を拠点した街あるきラリー

(リトルブッタが手作りの親しみのあるマップを作る)

ステップ ⑤ 国際交流

寺院や僧侶の国際ルートにより、国際交流を行います。

海外の方との文通や海外へ訪問、ボランティア参加等、

国際交流を身近に感じ取った子供達は、国際感覚が豊かになり、

将来に向けて大きな財産となるでしょう。

最後に

私が幼い頃、近所にお寺があった為、お坊さんに多く接する機会がありました。

お坊さんは、私に会うと

「親にもらった体は大切にしてください」

「両親を尊敬してください」

「小さい虫にも命があるからいじめたり殺したりしたらダメだよ」

「大事なことがある前は、黙とうしてください、心が落ち着くから」

等をやさしく諭してくれました。

その言葉は、大人になった今でも忘れません。

今の子供達は、お坊さんに接する機会が圧倒的に少なく、

接したくてもどうやって接すれば良いかわからないのが現状だと思います。

今回の提案のように、お坊さんは、子供と接する機会を設けて、教育問題を手助け

できるシステムを作ってほしいと思います。それができるのは、お坊さんしかいないと

思います。

お坊さんが、その役割を果たすことで、地域住民から信頼され、

お寺が地域のコミュニティの場として機能していくのではないのでしょうか。